



心のビタミン No.205



オーブンデーター

米国の大統領選挙でトランプ氏が勝利し、オバマケアの今後が不透明となった。同国の医療保険制度は長年迷走中。多数の患者を援助する案は反対、少数患者の場合も反対と。それではいったいどうすればよいのか？

一方、日本の国民皆保険制度は世界に誇るもので、公の精神が内在する。ただ、高齢化や医療の発展で医療費が増え続けるなど、次第に対応が難しくなってきたのも事実だ。過日、小泉進次郎自民党農林部会長が将来の社会保障改革の提言を発表。湿布薬やうがい薬も現在公的保険の対象だが、軽微なリスクは自助で対応してもらおう方向へ。国から公開中の膨大なデータによると、湿布処方量は年間54億枚。1枚は高くはないが、積みり積もると大きな負担だ。

ここで各立場から考えてみたい。①官僚は将来

を鑑み、まず影響が少ない項目から開始。②医師は、湿布よりもっと節約すべきものがあるだろうと思う。③若年者は減多にせず不要だが、アスリートには必須。④湿布全体の7割を消費する70歳以上の高齢者は、長引く痛みで悩み、湿布を頼りにする人も多い。

このように、いろんな意見が存在する。たかが湿布、されど湿布である。あなたは日本の医療に対して、何か良い意見はお持ちだろうか？ オーブンデーターに基づいて建設的な議論を望みたい。

(医師・音楽家板東浩)

